

# 沖縄の怒りと共に安保粉砕の大デモを

日米安保同盟こそ、基地の全面的強化（沖縄の軍事要塞化）と戦争の元凶です。24年4月の日米首脳会談における日米安保の「アップグレード」の確認、その核心である米軍・自衛隊の指揮統制の連携強化＝一体化は、日米安保が中国侵略戦争同盟であることを明確にしました。トランプの登場はこれをさらに加速させています。2月7日の日米首脳会談も「対中国」の同盟強化を強力に確認しました。

トランプは現行の日米安保への不満を突きつけ、米国防次官候補のコルビーも「防衛費のGDP比3%への引き上げを公然と要求していますが、それは日本の戦争遂行主体への明示な転換、自衛隊の最前線の戦争部隊への断絶的飛躍をさらに迫るものです。

日本帝国主義・石破政権はこれをもテコに、積極的主体的に中国侵略戦争に突き進んでいます。米日の中国侵略戦争を絶対に止めよう。

## 沖縄を中国侵略戦争の軍事拠点＝戦場にするな

米日は、中国を「これまで直面した中で最も強力で危険な敵国」(ルビオ米国防務長官)と名指しし、戦争をも辞さず「打ち負かす」ことを狙っています。すでに、中国を「仮想敵」と明示した日米共同作戦計画を24年末に策定し、実戦的な戦争訓練が沖縄・南西諸島を中心に何度も繰り返されています。

作戦計画の要は「遠征前進基地作戦」(EABO)です。これは南西諸島の島々に数十カ所の臨時基地を建設し、島々を移動しながら中国軍へのミサイル攻撃を行うものです。初めから「離島防衛」ではなく、中国本土への侵攻が目的とされているのです。沖縄の戦場化は前提にされています。

殺し殺される非人間的訓練が沖縄の日常となり、米兵による住民への襲撃・性暴力事件も相次いでいます。沖縄の人々の積もり積もった怒りと



**日米共同訓練始まる**  
過去最大、離島防衛を想定

陸上自衛隊水陸機動団と在沖米海兵隊などによる、離島防衛を想定した日米共同訓練「アイアン・ファistsト25」の開始式が19日、金武町の米軍キャンプ・ハンセンで行われた。参加人数は県外実施を含め、日米合わせて約4千人で、昨年から倍増し過去最大規模となる。県内での開始式実施は初めて、海洋進出を強める中国を念頭に、南西方面での日米の連携強化のメッセージを出した形だ。

水陸機動団長の北島一陸将補は開始式で訓示

2月19日～3月7日にかけて沖縄・南西諸島・九州で行われた「アイアン・ファistsト25」。

し、安全保障環境の厳しさに触れ「ウクライナ侵略と同様の事態が発生する可能性は、世界中のいかなる場所でも否定できない」と強調した。

米海兵隊第3海兵遠征旅団(3MEB)旅団長のトレバー・ホール准将は、遠征前方基地作戦(EABO)などが訓練されること、相互運用性を高めることで、それぞれの国を防衛することができると話した。

県内では3月7日までの訓練期間中、キャンプ・コトニ、金武ブルームフィールド訓練場、北部訓練場、伊江島補助飛行場などの提供施設に加え、那覇基地で陸自ヘリの離着陸が予定される。(知念征尚)

連帯し、全基地撤去・日米安保粉砕！ トランプ・石破打倒を掲げて闘おう！

## 改憲・大軍拡・戦争に突き進む石破を倒そう

第二次トランプ政権の登場が「平和」をもたらすなどあり得ません。ウクライナを「停戦」させ、「ガザ所有」を企むのは、「米国第一」のもとに「力による」帝国主義的な侵略と資源の略奪の限りを尽くし、すべての国力を中国との戦争に集中するためです。

政府やマスコミが宣伝する「中国が攻めてくる」などの「中国脅威論」はまったくデタラメです。そもそも戦中・戦後も一貫して戦争を引き起こし、沖縄やパレスチナを蹂躪してきた米日帝国主義が、沖縄の人々を「脅威から守る」など全くもって転倒しています。

何より石破政権は、戦後最大の軍事費 8 兆 7005 億円を計上し、2025 年度内の長射程ミサイルの取得と配備、弾薬庫の整備と新設、自衛隊基地の司令部の地下化などを狙っています。この戦争予算に対し既成政党と連合などはすべて沈黙し、石破は少数与党の現実を逆手に取って改憲政党を束ねあげ、翼賛国会をつくり、憲法9条の改悪＝「交戦権」明記に突き進んでいます。

今こそ、トランプと石破を打倒し、中国侵略戦争を阻止しよう。首都を揺るがす巨大な反戦デモを4・27 渋谷で巻き起こそう！